

八百津町合併55周年・杉原千畝生誕110周年記念事業

町民リトアニア 欧州訪問団 愛と勇気の舞台を訪れて

去る10月9日から16日までの8日間、町合併55周年並びに杉原千畝生誕110周年事業として、町民のみなさんから参加を募り、総勢32名の「町民リトアニア・欧州訪問団」を結成。赤塚町長を団長とし、故杉原氏ゆかりの地などを訪ねてきました。この事業には「吉田茂国際交流基金」が使われており、今回、基金へ毎年多額の寄附をされている名誉町民の吉田茂さんもこの訪問団に参加していただきました。

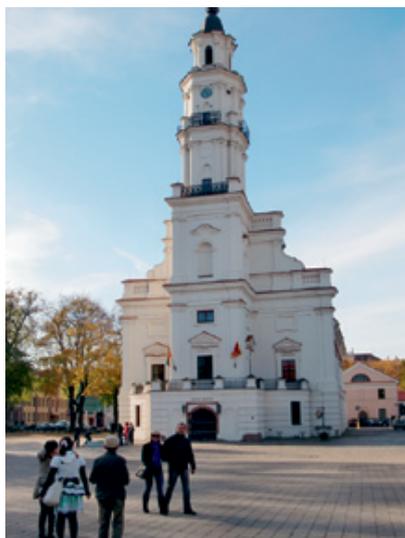
その訪問の様子や参加者の感想などを紹介します。



セントレア空港から約12時間かけて到着したリトアニアの空の玄関「ビリニュス空港」



14世紀に建てられた「トゥラカイ城」は、赤レンガの城姿が湖面に生え、当時の反映ぶりが想像されました



白鳥の美しさにたとえられる「旧市庁舎」は、カウナス旧市街の中心にあり、周囲をゴシック様式の建物に囲まれ、ヨーロッパの中世を思わせる古いたたずまいが印象的でした

「ゴォー」という轟音とともに体が座席に押しつけられ、窓から見えるセントレア空港の風景が後へ後へ流れ去っていく。やがて「ゴトゴト」という振動が消え、次の瞬間に体が「フワッ」と宙に浮く感覚を全身に感じた。いよいよ8日間に及ぶ「リトアニア欧州訪問」の旅が始まりました。この訪問は、八百津町合併55周年と元リトアニア領事代理の杉原千畝氏生誕110周年を記念し、同氏が多くの尊い命を救うこととなった決断の地である「カウナス市」を訪ね、その遺徳を偲ぶと共に、リトアニア共和国と日本両国親善に資することを目的で計画されたもので、赤塚町長を団長に柘植議会議長、当町名誉町民の吉田茂氏と秘書、町民26名、随員町職員2名の総勢32名が参加しました。

〔第1日目〕

10月9日午前11時、私たち訪問団32名を乗せたフィンランドエアー A Y080便は予定どおりの時刻にセントレア空港を離陸、中国・ロシアを横切る7.769 Kmを約10時間半かけ一路北欧フィンランドのヘルシンキ・ヴァンター国際空港へと飛びました。この空港は、フィンランドの最南端に位置し、北欧のみならず中東や東欧へ向けた便のハブ空港として機能し、日本と欧州を結ぶ最短飛行距離の空港となります。リトアニアへはこの空港から更に1時間半ほどの空の旅が必要で、首都ビリニュスに到着したのは現地時間の午後5時半、日本との時差は6時間（夏時間）あり日本では夜中の11時半頃となりました。

ビリニュス空港では現地ガイド兼通訳のユーナス氏と面会した後、円から交換したユーロを更にリトアニア通貨の「リタス」に交換しました。リトアニアは2004年5月に欧州

